

日々の祈り

2021年6月28日(月)~7月3日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・特に教会に来ることができない兄弟姉妹を覚えて。
- ・宮崎の地で共に伝道する諸教会のために。
- ・一人でも多くの者が神さまの許に立ち帰ることが出来るように。

28日(月)

ルカによる福音書 14章 33節

だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまは、救いに与ったわたしたちが、最後までイエスさまにのみ寄り頼んで、イエスさまの後を従い抜くことを求めておられます。そのためには、自分に与えられたものを優先して愛し、持っているものに頼るのではなく、まずイエスさまを一番に愛し、罪にも死にも勝利されたこのお方にのみ頼ることが必要です。その中でこそ、わたしたちは従う力が与えられるし、また自分に与えられているものを愛し、大切にし、正しく用いることも出来るのです。

29日(火)

コリントの信徒への手紙二 4章 7~9節

ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。

わたしたちは脆く、弱く、貧しい、土の器です。そして、四方から苦しめられることも、途方に暮れることも、虐げられることも、打ち倒されることもあります。しかし、宝を持っているので、その力によって、行き詰らず、失望せず、見捨てられず、滅ぼされないでいることが出来るのです。「このような宝」とは、イエスさまの救いのことです。この宝に、すべての恵みと力があります。それを、わたしたちは与えられ、この身に納めているのです。

30日(水)

詩編 119 編 176 節

わたしが小羊のように失われ、迷うとき／どうかあなたの僕を探してください。あなたの戒めをわたしは決して忘れません。

小羊は、群れからはぐれて迷ったら、自分で戻ることは出来ません。羊は目が悪く、獲物に抵抗する力もなく、また決して賢いとは言えない動物です。小羊は、羊飼いが捜してくれるのをただ待つしかないのです。わたしたちも同じです。罪に捕らえられ、目も耳も心も閉ざされ、神さまから離れて迷い出してしまったら、もう自分で戻ることは出来ません。しかし、小羊を愛する羊飼いは、必ず探しに来て下さいます。どこにいても、必ず見つけ出して下さいます。わたしたちはこの羊飼いを、全面的に信頼し、期待し、救いを求めて良いのです。

1日(木)

エレミヤ書 9 章 23 節

むしろ、誇る者は、この事を誇るがよい／目覚めてわたしを知ること。わたしこそ主。この地に慈しみと正義と恵みの業を行う事／その事をわたしは喜ぶ、と主は言われる。

神さまは、この地に慈しみと正義と恵みの業を行う事を、「わたしは喜ぶ」と言われます。救いの御業を行なうことは、神さまご自身の喜びだと言われるのです。救いの御業は、確かにわたしたちのために行なわれることであり、救われるわたしたちの大きな喜びです。しかし、神さまは何よりもまず、ご自分の喜びのためにこれを行なう、と言って下さるのです。あなたを救い出すことが、わたしの喜びだ。あなたが生きることが、わたしの喜びだ。そう言ってわたしたちを慈しみ、正義と恵みの御業を行なって下さるのです。

2日(金)

エゼキエル書 34 章 12 節

牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探すように、わたしは自分の羊を探す。わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。

次の主日礼拝の御言葉です。神さまとわたしたちの関係は、旧約聖書の時代から、たびたび牧者（羊飼）と羊の関係にたとえられます。羊は自分で食べ者や水を見つけることができず、狼などの野獣から自分を守ることも出来ません。完全に羊飼いに依存し、養われ、守られることによって、生きているのです。わたしたちも同じです。そして、羊飼いは、羊を心から愛し、その一匹がいなくなっても、必ず探して見つけ出すほどに大切にします。神さまもまた、そのような方なのです。

3日(土)

ルカによる福音書 15 章 4 節

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけて出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであらう。

明日の主日礼拝の御言葉です。有名なたとえ話ですが、この話が強調しているのは、失ったものを見つけた者の喜びがどれだけ大きいか、ということです。神さまは、失われた一人の罪人を、何がなんでも捜し出されます。そして、ご自分の許に取り戻したなら、周りの人々を巻き込んで喜び祝うほどに嬉しい、と言われるのです。

聖句: 日本聖書協会『聖書 新共同訳』